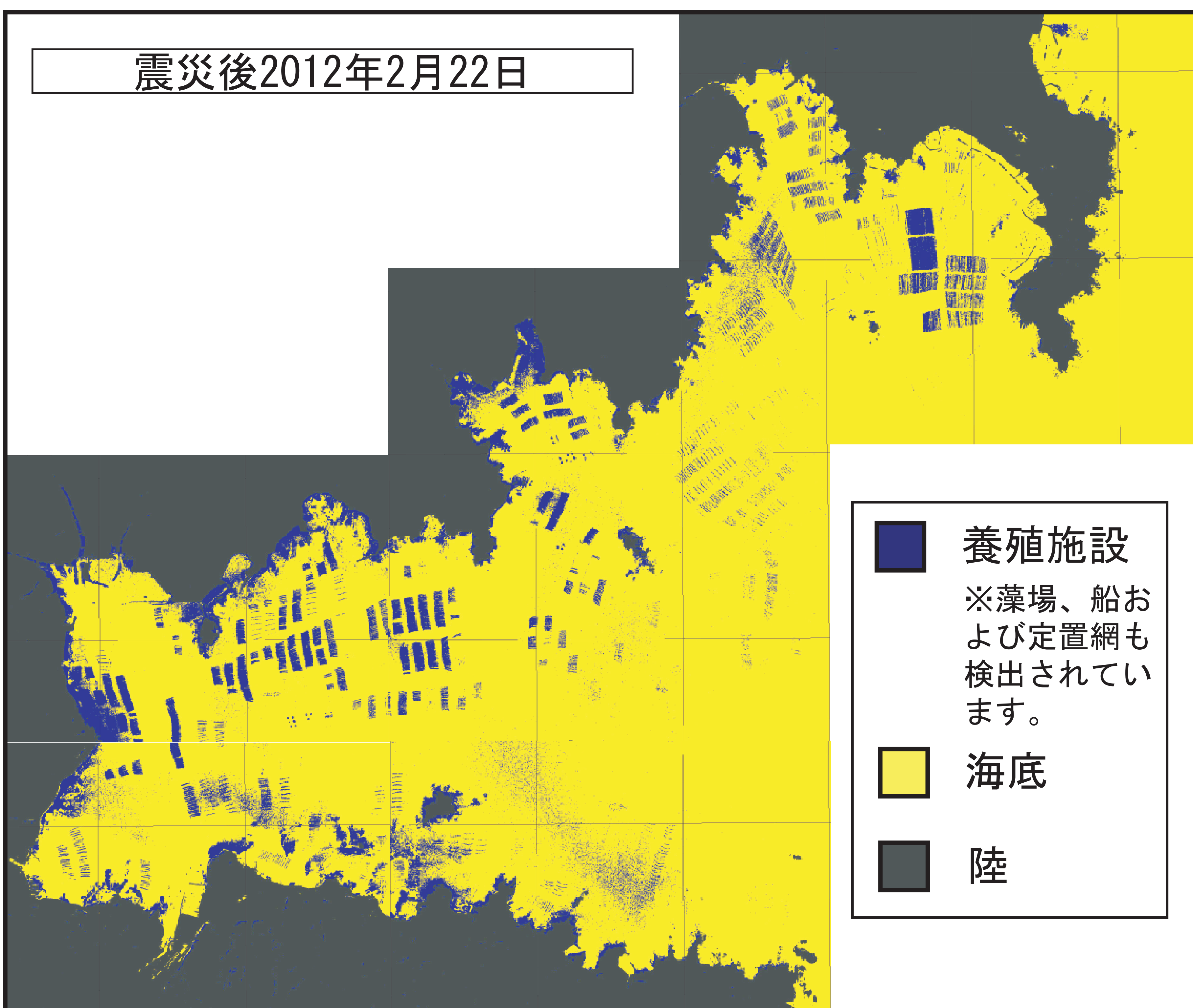
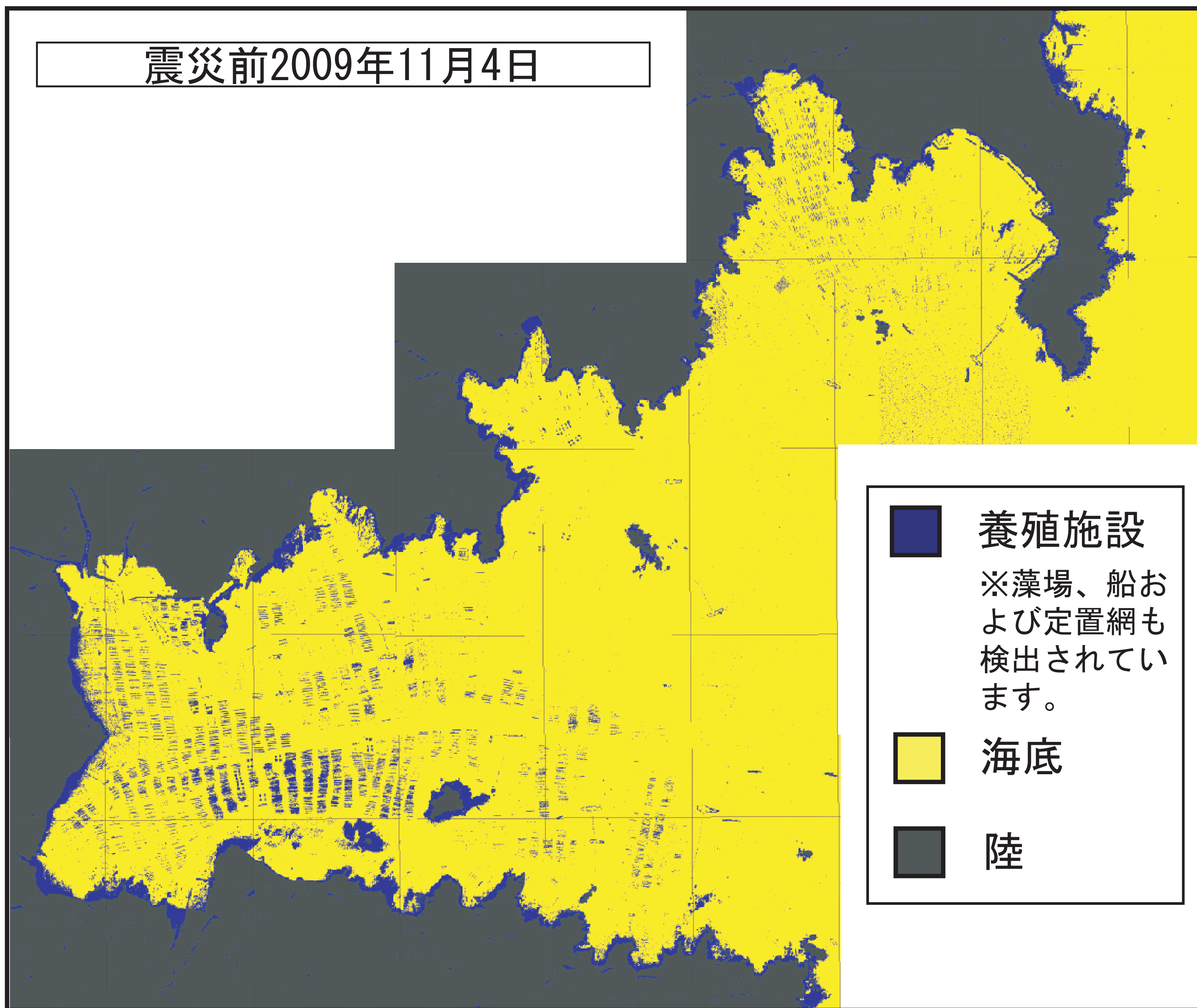


志津川湾における養殖漁場 — 震災前後の比較 —

(財) 環日本海環境協力センター
東京大学 大気海洋研究所



志津川湾は南三陸の中央部に位置し、湾内には荒島や椿島等の大小の島々が散在しています。志津川湾は、湾口幅6.6 km、面積46.8 km²、湾内最大水深54 mの湾であり、カキ、ギンザケ、ワカメおよびノリ等の養殖が盛んです。養殖施設の敷設状況を把握するために、震災前後に撮影された人工衛星画像を解析し比較しました。



養殖施設、海底および陸をそれぞれ青色、黄色および灰色で示しました。カキ、ワカメ、ノリの養殖筏が青色の棒状の線で、ギンザケの養殖施設が丸や四角で検出されています。

2009年11月4日の画像では多くの筏が見られますが、2011年3月11日に発生した津波によって養殖施設のほとんど全てが流失しました。しかし、2012年2月22日の画像から、震災後、養殖施設が復旧している様子が分かります。

持続可能な養殖漁場を形成していくため、衛星画像解析結果を漁業復興に係る資料として地元漁協等に提供しました。



ワカメ養殖筏 (2012年10月25日撮影)



ギンザケ養殖施設 (2012年5月29日撮影)



カキ養殖筏 (2012年5月29日撮影)

この研究は、三井物産環境基金2011年度東日本復興助成(研究助成)を受けています。

